

郷音

No. 77

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁一十三

☎七二・三三三・三三三二

「主において常に喜びなさい。
重ねて言います。喜びなさい。」

(フィリピ四章四節)

「主において常に喜びなさい」とみ言葉は命じます。これはどういうことでしょうか。キリスト者は常にニコニコ喜んでいなければならぬということでしょうか。無理をしても、自分を偽ってでも、そうしなければならぬというところでしようか。そのような不自然なことを続けたら、私たちは心も体も参ってしまうのではないのでしょうか。

主イエス・キリストご自身のことを考えてみたいのです。主イエスは地上の歩みをされていたとき決していつもニコニコ喜んでおられたわけではありませんでした。ある時は、怒られました。弟子たちを「信仰の薄い者よ」とお叱りになり、「いつまであなたがたに我慢しなければならぬのか」と嘆か

れたこともありました。エルサレム神殿の境内で商売をしていた者たちを、怒りのあまり力づくで追い出されたこともありました。また、主イエスは悲しみの涙を流されたこともありました。ご自分の愛しておられた若者ラザロが死んだ時、その墓の前で涙を流されま

喜びなさい

フィリピの信徒への手紙四章四節

塚本一正牧師



した。また、主イエスは十字架の前にされた時には、深く苦悩されました。グツセマナで悲しみも覚えながら「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」と祈られました。そして、十字架の上で苦しみの果てに「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫んで息を引き取られたのです。そのように、主イエスはこの地上の

歩みにおいて、多くの試験に遭われ、その中で、怒り、悲しみ、苦しみ、悩まれたのです。

実は、私たちが常に喜ぶことができるのは、この主イエスがいつも私たちと共にいてくださるからです。新約聖書へブライアンへの手紙二章にこうあります。「イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となつて、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかつ

たのです。事実、御自身、試験を受けて苦しまれたからこそ、試験を受けている人たちを助けることがおできになるのです。」

私たちが人間は、この地上で様々な試験に出会い、怒り、悲しみ、苦しみ、悩みます。その時主イエスが共にいてくださるのです。私たちが救ってくださるために、神の独り子でありながらまことの人間となつてこの地上に来てくださり、試験を受けてくださった主が、試

練を受けている私たちと共にいてくださり、助けてくださるのです。この主イエスのゆえに、私たちは、試験のただ中にあつても、自分の深いところでは、喜びを失わないでいられます。

それは、たとえ私たちが本当に厳しい試験を受けて、神の御心がわからなくなり、神を疑い、神は自分をお見捨てになったのではないかと、思うような時にも変わりません。なぜならその時にも、十字架の上で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫んで死なれた主イエスが、私たちと共にいてくださるからです。

「主において常に喜びなさい」とは、この主イエスのゆえに私たちに既に与えられている深いところにある喜びを、失うことなく、この喜びに生き続けなさいという勧めです。受難節を過ごしていても、主が私たちにのために味わわれた苦難と死を深く思いつつ、それによって、どんなに大きな救いが私たちに与えられたかを、感謝をもっておぼえたいのです。